

写真でつながる、境界がひろがる

世界連邦推進事業
瑞穂町平和事業



渋谷敦志写真展

国境のない世界を夢みて

令和3年 12月19日(日) - 令和4年 1月6日(木)

耕心館 2階 多目的大広間

- ◎開館時間 10:00~21:00 ※12月19日(日)は13:00から
- ◎入場料 無料
- ◎12月20日(月)および年末年始(12月29日(水)-1月3日(月))は休館です。

渋谷敦志氏による写真解説

ギャラリートーク

令和3年12月19日(日) 14:00~15:00
令和4年1月6日(木) 11:00~12:00

入場無料
申込不要

主催 瑞穂町

お問合せ 瑞穂町企画部企画課 042-557-7468

この写真展は、世界連邦宣言自治体全国協議会の交付金を活用しています。



写真家・渋谷敦志は、これまで約20年にわたり、世界各地の紛争や災害、貧困や難民の問題を取材し、「境界を生きる人びとを記録し、分断を乗り越える想像力を鍛えること」をテーマに撮影してきました。

標高3,000メートル近いエチオピアの山岳地帯、タイとミャンマーの国境地帯にあるジャングル、長い紛争で飢餓が続くソマリア、100万もの南スーダン難民が暮らすウガンダ、津波がすべてを奪った福島県の南相馬、難民の受け入れに揺れるギリシャのレスボス島……。渋谷は、慣れ親しんだ日常から過酷な現場へと移動を繰り返しながら、想像を絶する人生の時間を生

きてきただれかとの出会いを重ねてきました。それは、人びとは「難民」や「被災者」などとひとくくりにはできない、一人ひとりが固有の名前や感情をもつ「人間」であることを知る旅でもあったのです。

「ほかならない『あなた』とカメラを通してコミュニケーションするうちに、乗り越えようとしてきた境界線は、自分の外ではなく、内にこそ引かれていくと気づいていった」と渋谷はいいます。

子どもの頃は国境なんて関係ありませんでした。言葉や文化の違いは越えられない壁でも争う理由でもなかったはずです。それが、いつの間にか心の中にボーダーをつ

くってしまったままです。

貧困や格差が生む不条理、紛争やテロといった暴力、コロナがあらわにした分断……。これらの課題にどう向き合えばよいのか。乗り越えるのは決して簡単ではありませんが、困難を生きる人間の生のリアルに迫った写真を通して、かぎとなる想像力をアップデートするきっかけにしてほしいと願います。

また本展では、瑞穂町に暮らす住民との交流の際に写した写真も合わせて展示します。同じ時代に生きる人間同士が写真でつながることで、目に見えない境界線がひろがっていくを感じてみてください。



渋谷敦志
Shibuya Atsushi

写真家。1975年大阪生まれ。立命館大学産業社会学部、英国 London College of Printing 卒業。高校生の時に一ノ瀬泰造の本に出会い、報道写真家を志す。大学在学中に1年間、ブラジルの法律事務所で働きながら本格的に写真を撮り始める。大学卒業直後、ホームレス問題を取材したルポで国境なき医師団主催1999年 MSFフォトジャーナリスト賞を受賞。それをきっかけにアフリカ、アジアへの取材を始める。著書に『今日という日を摘み取れ』『まなざしが会おう場所へ——越境する写真家として生きる』『帰るブラジル』『希望のダンス——エイズで親をなくしたウガンダの子どもたち』『みんなたいせつ——世界人権宣言の絵本』などがある。2021年、第4回笹本恒子写真賞を受賞。東京都小平市在住。

【写真展併催イベント】

ギャラリートーク

◎参加無料、申し込み不要

◎会場：耕心館 2階 多目的大広間

令和3年12月19日 日 14:00～15:00

令和4年1月6日 木 11:00～12:00

写真家・渋谷敦志氏が、自身の作品と取材過程、現在の活動について語りながら、展示を案内します。

各回ともに約1時間の予定です。座席はございません。

※イベントの内容が変更になる場合がございます。予めご了承ください。

※ご来場の際はマスクを着用いただき、感染対策にご協力をお願いします。



【写真展会場】

耕心館

〒190-1202
東京都西多摩郡
瑞穂町大字駒形富士山317番地1

アクセス

◎JR八高線 箱根ヶ崎駅東口よりコミュニティバス

「元狭山・長岡コース」駒形富士山下車

◎箱根ヶ崎駅東口より徒歩20分、タクシー5分

◎無料駐車場40台

※時間等により混雑のため駐車できない場合があります